

自然活用部会の報告

環境調査で地域を学ぶ

本年度新規事業で取り組んでいる若槻環境調査は、昭和の森公園に調査地点を設定し、調査状況を分野ごとに現地で発表した。学習会で明らかになった希少な植物や野鳥を地域全体で守る活動が必要だ。

◇9月15日は「在来種と外来種」がテーマ。戸谷彌生先生が説明し、代表的な外来種として、西洋タンポポ、オオバクサやセイタカアワダチソウが確認された。

◇10月21日は「地形と植物」をテーマとし、竹重聡先生の説明。若槻丘陵は三登山を抱え、東側は三才断層が走る急な崖で、長い年月を経てきた盆地。市域では希少な地形でもあり、3億年前はシダ植物全盛の時代で、現在もここに多種のシダ類が生殖し往時を物語っている。



植物の戸谷彌生先生

◇12月1日は「野鳥」をテーマに実施する予定だったが、当日は天候が荒れ実施できなかった。羽田収先生が概要を説明し、昭和の森公園には、年中いるカラスやスズメのほかに、冬が来ると北国からの野鳥も住みつくといい。76種類が確認されて、珍しいものではオオタカやフクロウも観ることができる。

青少年部会の報告

— 子ども科学体験教室 —

「超低温世界」に超ビックリ

青少年部会は、各地区育成会・PTAとともに12月2日、「子ども科学体験教室 サイエンスショー」を開催した。

今年は、長野高専に出前講座をお願いし「超低温-196℃の世界」をテーマに、午前は若槻コミュニティセンター、午後は稲田徳間地区センターの2会場で実施。両会場には50名を超える子どもたちや、その家族が集まり超低温の実験に夢中になった。

「バナナがかなづち」、「花がばらばら」、「消える風船」、「カリカリマシュマロ」、「何もない袋の中身」、「エジソン電球のひみつ」など液体窒素を使った9つの超低温マジックに子どもたちはびっくり仰天。「アイスクリームはいかが？」の実験では、牛乳と砂糖をかき混ぜ、超低温にしてアイスクリームを作って試



食すると、「おいしい!!!」「すごい!!!」の歓声が上がった。

子どもたちからは「知らないことがたくさんあって勉強になった」「実際に体験するのは、とても面白かった」と次々と実体験で得た喜びが発信された。